



静岡県知事賞

私の大切な命「ファミ」

六年 増渕美南

私の家には、命が七つある。父、母、兄、私、加えてドジョウ二匹の命。みんな私にとって大切な命だ。そして、五年前にまた一つ、大切な命が増えた。猫がやって来たのだ。その猫の名前はファミ。オスの黒猫だ。

ファミと私たちは、奇跡のような出会いをした。

五年前の冬、母はとあるコンビニに寄り、商品棚の下に黒いかたまりを見つけたそうだった。それは黒い野良猫で、偶然迷いこんでしまったらしい。この猫が、後のファミである。

ちょうどその時、たまたま獣医さんが立ち寄り、この黒猫の保護を手伝ってくれたそうだった。そして、誰が引き取るかの話し合いになり、母が率先して手を挙げたらしい。このコンビニの名前がファミリーマートだったことから、この黒猫を「ファミ」と名付けた。

元々私たち家族は、猫を飼いたいという話をしてきた。そのような時にファミと出会うことができずには、本当に嬉しかった。学校から帰ってきた時、満面の笑みで玄関に立っていた母の姿は、今でも忘れられない。ファミは、奇跡の出会いを通じて家族に笑顔をもたらしてくれた、私の宝物である。

世の中には、アニマルセラピーという言葉がある。アニマルセラピーは、動物とのふれあいによって、人々の心を癒すことをいう。日本アニマルセラピー協会によると、ペットとふれあうことによって、ペットを飼っていない人より、年間二十パーセント前後病院に行く回数が減ったり、会話や笑顔、表情の変化が増えたりしたというデータがあるそうだった。

確かに、ファミを家に迎え入れてから、私は笑顔になることや、毎日の楽しみが増えた気がする。それに加え、何か嫌なことがあった時にファミのことを撫でると、手の平から幸せが伝わってきて、不安や心配が減る気がする。ファミは、私のことを癒してくれるかけがえのない存在だ。

だから、毎日愛情を持って接している。今日もファミは、私が用意したごはんを美味しく食べている。

猫の寿命は、十五年程しかないそうだった。ファミは今五才である。そう考えると、ファミとふれあっている日々は、とても貴重なものだと思う。ファミの命は、私の大切な宝物だ。これから、もっとたくさんファミとふれあってもっとファミのことを大事にしたい。ファミも、毎日幸せに生きてほしい。このファミとの貴重な日々を、満喫していきたいと思う。

〈出典〉

日本アニマルセラピー協会ウェブサイト